

## ひだクリニックセントラルパーク土曜診療 8月19日～12時～17時半で行います。



### 【休診のご案内】

ひだクリニック：土曜・祝日 休診

ひだクリニックセントラルパーク：水・日曜日祝日休診

お盆休み：ひだクリニック 8月11日～13日（13日わいわい講座実施）

セントラルパーク：8月10日～14日

急に具合が悪くなった場合は、主治医がいなくても応急対応をいたしますのでご相談ください。休診の場合は、空いている方のクリニックで対応いたしますので、まずは、お電話にてご連絡ください。自立支援は登録医療機関のみご使用になれます。



### 【ご案内】

日曜日の家族教室は、ひだクリニック3階るえかホールにて行っております。

8月20日（日）10時～12時 家族SST

8月20日（日）14時～16時 サイコドラマ

8月27日（日）10時～12時 ふぁみりーテーブル基礎講座

「薬について」 薬剤師

9月 3日（日）10時～12時 「べてる式家族当事者研究」

9月 7日（木）16時半～20時 ふーけ家族懇談会と家族セントラル

9月 7日（木）18時～20時 クローバー家族ひだクリニック

9月 9日（土）認知行動療法フォローアップ講座 セントラル

9月10日（日）10時～12時 わいわい講座「デイケアについて」

\*リワークプログラム 8月22日～ ナイトリワーク 9月16日～ひだクリニックにて実施します。



【編集後記】法人内を機能分化し、より充実したサービスが提供できるようにと業務内容の整理をしています。そらむぎを通じて、少しずつお知らせしていきます（み）

H29年 8月号 No.127



# ホームページが リニューアルされました

8月1日より、法人のホームページが新しく成りました。

旧ホームページからジャンプするまで少し時間がかかるかもしれませんが、ぜひご覧いただければと思います。うまく開けない場合は、soramugi.comからご覧ください。

12年前にとして当法人宙麦会は、前身の「ひだクリニック」としてスタートしました。目の前にいる方々に必要なことを追い求めているうちに、現在の形となってきました。この新しい、ホームページでは、私たち宙麦会と株式会社マーズの宙麦グループが皆様に提供できるサービスをわかりやすく表示しました。

医療法人の「宙麦会」は、「ひだクリニック」と「ひだクリニックセント

ラルパーク」「訪問看護ステーションすぴか」「相談支援事業所ファーレ」の4つの組織があります。キャッチコピーが示すように、立地の違いだけでなく、

「ひだクリニック」は、地域生活での生活を支援する「地域医療」を、「ひだクリニックセントラルパーク」は、「初めて精神科医療を受診する方が安心して受診できる医療」をテーマに、それぞれ機能分化をさせていこうと考えております。それぞれには、「デイケアるえか」、「デイケアぶーけ」があります。また、そのそれぞれの療養生活を支えるのが、「訪問看護ステーションすぴか」であり、福祉サービスの窓口となる「相談支援事業所ファーレ」です。

その個々の福祉サービスは、生活をまるごと介護し、支えていく「生活介護事業所 SONIA(そにあ)」、「多機能型事業所マーレ」には、自立生活できるよう訓練していく、自立生活部門と就労継続支援 B 型事業所部門の2つの機能があります。もう一つの「就労継続支援 B 型事業所 TERRA (テララ)」は、より一歩進んだ形での就労継続を目指します。そして、施設外就労として「お好み焼き 焼麦大郎」があります。

障害者雇用の就職を目指し訓練するのが「就労移行支援 co opus (コパス)」。住まいの提供が「グループホーム my 夢 (マイム)」となっています。

これで、十分とは言えませんが、これらの機能を使って、単なる医療の提供にとどまらず、皆様の生活を支える一助になればと、考えております。

このようにたくさんの事業所だけが連なっていると、どのサービスを受けたらよいかかわらなくなりますね。そんなときサポートするのが、外来での支援を行っている精神保健福祉士、看護師です。窓口でのちょっとしたご相談、お時間を約束しての面談なども行い、皆様をサポートします。お気軽にお声をかけてください。



©tanave.com



## 肥田先生のメディカルコラム Vol.79

「精神科デイケアとは何か。精神科デイケアの本質とは何か」

～その15～

先号ではソテリアの話や支援の概念が継承されていくことの必要性をのべてみました。

書籍の紹介です。石原孝二の『当事者研究の研究』(医学書院)という本があります。そこでは、当事者研究を含めやっていることを、反精神医学の“反”ではなく、半精神医学 quasi-psychiatry と呼んでいます。半分医療で半分支援というように混じりあっているということです。1960年代は反精神医学でしたが、私も2010年代は、石原の半精神医学がいいかなと思っています。“半”という字はすごく大切だと思っています。

また、マックスウェル・ジョーンズ (Maxwell Jones) が1960年後半にクイーンズホールに赴任したときの体験談を書いています。『治療共同体を超えて—社会精神医学の臨床—』(岩崎学術出版社)という本がそれです。この中には、いまだに考えられる有名な概念が残っています。これは集団を考えるとときにはぜひ肝に銘じていただきたいところです。

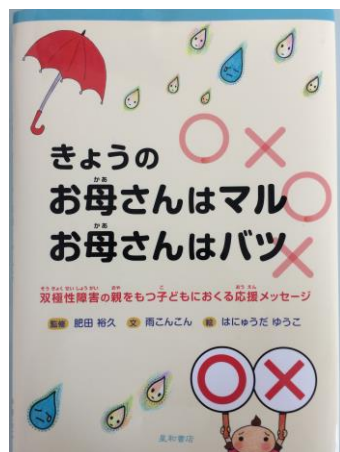
3つあります。

- 1) 上から下へのコミュニケーションの有害性  
開かれた双方向性コミュニケーション
- 2) 1人のリーダーに依存しない。  
多くの人々が、リーダーとして参加。  
全員一致の意思決定システム
- 3) 成熟は痛みを伴うコンフロンテーション  
変革を志向する治療文化こそが重要

この3つについては次号で詳しくみていきましょう。

## 「今日のお母さんはマル、お母さんはバツ」

もう、ご覧いただきましたか？  
精神科の病気と付き合いながらの  
子育ては、たいへんですよね。  
子どもたちにも戸惑いがあります。  
そんな作者の経験を活かして  
この本は作られました。クリニック  
でも販売しております。どうぞ  
お手に取ってご覧ください。



## お好み焼き焼麦太郎

### お惣菜コーナーに進出！



テレビでも話題となった？「揚げお好み焼き」がなんと新松戸のスーパー・グランデールで販売されることになりました。

「あげおこ」の名で親しまれているこの商品は新しいタイプのお好み焼きです。

ぜひ、一度ご賞味あれ！！

宙麦会&MARS スタッフのバトンリレーのページです。

今月は、ひだクリニックの比嘉先生です

そらむきをご覧の皆様、厳しい暑さが続いておりますが、いかにお過ごしでしょうか？

2015年4月より、ひだクリニックの外来にて診療を担当しております比嘉謙介（ひがけんすけ）です。このたび、多機能型事業所マーレの櫻田さんからバトンを受けましたので簡単ではありますが自己紹介をさせていただきます。出身は沖縄県です。ひだクリニックで診療をする前は総合病院のなかの精神科で身体的な症状を有する方々のお手伝いをする事が多かったため始めのうちは戸惑うこともありましたが、充実した時間を過ごさせていただきながら無事に3年目を迎えることができました。これもひとえに、皆様のお力添えのおかげと深く感謝しております。これまで培った他の診療科との連携や心身両面に関連した症状への対応などの経験を生かして、より多くの方々のニーズに答えていきたいと考えております。また、専門的な用語ではなく、受診される方々の体験や言葉を用いて、症状を理解し治療を選択できるよう心がけておりますので、お気軽にご相談ください。

次回はひだクリニックのデイケアの  
笹川さんにバトンをお渡ししたいと思います。

